

## 第 59 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 作家選考について

国際交流基金から委嘱された下記の 6 人の選考委員が、過去のコミッショナー／キュレーター経験者、歴代の国際展事業委員よりあらかじめノミネートされた複数の作家の推薦リストをもとに選考会議を開催した。基金からは、一作家もしくは継続的に活動しているユニットを選定すること、選定作家は日本の現代美術を代表するにふさわしい存在であり、国際的な経験が豊富であることが望ましいと事前に伝えられた。

選考会議ではまず推薦された作家についての資料・カタログを閲覧し、推薦コメントにも目を通した。その後、委員による議論と投票を重ねて候補作家を絞り込み、最終的にダムタイプを選定作家として基金に答申することとした。

従来、ヴェネチア・ビエンナーレの日本館では、選考委員会が指名したコミッショナーが作家を選定するか、あるいは指名コンペによってコミッショナー／キュレーターの企画プランを選定する方法を採ってきたが、選考委員会が直接に作家を選定する方法を採用したのは今回が初めてである。

ダムタイプ（当初の名称はダムタイプシアター）は 1984 年に京都で結成された美術、音楽、ビデオ、ダンスなど多領域にわたる作家のグループで、国内外の美術館、劇場などでインスタレーションや映像、パフォーマンスを中心とした活動を展開してきた。デジタル技術と身体表現とを不可分に結び付けている点で、“ポストヒューマン”に向かう時代を象徴する存在と目されてもいる。

同グループの選定理由としては十分な活動歴があり、海外でも高い評価を受けていると同時に、現在もきわめて先鋭な作品を発表し続けていること、日本館での強力なプレゼンスのある展示が期待できることなどが挙げられた。

時代に対する批評的な視点を反映させ、これを「アクション」として表現する。最近注目されている「アートコレクティブ」の先駆け的な存在であり、メンバーを更新しながら、変化する情報とメディア環境の中での人間性を探求し続けている。

建畠 哲

選考委員(五十音順)

建畠 哲（埼玉県立近代美術館館長・多摩美術大学学長）

中井 康之（国立国際美術館副館長）

長谷川 祐子（東京都現代美術館参事・東京藝術大学大学院教授）

松本 透（長野県信濃美術館館長）

南 雄介（愛知県美術館館長）

鷺田 めるろ（キュレーター）